

平成28年度 全国保健師長会北海道ブロック研修会報告

テーマ『地域に責任をもった活動の強化に向けた人材育成を考える』

開催日時：平成28年9月3日(土) 13:30～16:30

開催場所：札幌市保健所 WEST19 5階講堂

参加者数：79名

プログラム：

□全国保健師長会あいさつ並びに平成28年度活動方針説明

全国保健師長会 宮原恵子 副会長

□平成27年度地域保健総合推進事業

「地域包括ケアシステム構築における保健所・市町村保健師の保健活動に関する研究」

報告者 国立保健医療科学院生涯健康研究部 松本珠実 上席主任研究官

(研究班オブザーバー)

□講演「地域に責任を持った活動の強化に向けた人材育成を考える」

～成長の可視化とキャリア・ディベロップメント～

講師 島根県立大学看護学部 吾郷美奈恵 教授

□実践報告「採用から退職までを意識した行政保健師キャリア・ディベロップメント支援プログラム」の作成

報告者 雲南市総務部人事課 細田典子 専門官

□グループ別意見交換・全体会

各会員及び参加者自身が、それぞれの立場で地域に責任を持った活動の強化に向けた人材育成やそのための職場環境づくり等について考える機会とした。

現場からは、「保健師らしい仕事をしたいけれど、目の前のことに追われて、何を目的に仕事をしているのかわからなくなる」等の声が聞こえることから、研修場面では、少し立ち止まって「自分はこんな地区活動がしたい」という活動の根拠やイメージを膨らませ、地域に責任を持った保健師らしい活動をするため、その基盤となる組織としての、あるいは、自分自身のOJT、人材育成について考える機会になればと企画しました。

台風被害への対応や交通ダイヤの乱れがある中、事前申込から約20名の欠席があったものの世代を問わず79名の参加がありました。

最初の全国保健師長会あいさつ並びに平成28年度活動方針説明は、全国保健師長会の活動を会員以外の参加者が知る機会となりました。次の「地域包括ケアシステム構築における保健所・市町村保健師の保健活動に関する研究」報告は、改めて地域包括ケアシステムの構築の必要性を確認、市町村保健師、県型保健所保健師の役割の現状と今後への期待が明確に示されたことから、これからの活動に活かされるものでありました。続く、講演「地域に責任を持った活動の強化に向けた人材育成を考える」～成長の可視化とキャリア・ディベロップメント～と、実践報告「採用から退職までを意識した行政保健師キャリア・ディベロップメント支援プログラム」の作成は、各所属における主体的な人材育成、採用か

ら退職までを意識した積み上げ方式の人材育成についての具体的なものであり、保健師の成長の可視化や地域に責任を持った活動の体系化についても多くの示唆をいただきました。



<研修風景>

教授からの助言をいただきました。

グループ別意見交換は、各会員及び参加者自身が、それぞれの立場で地域に責任を持った活動の強化に向けた人材育成やそのための職場環境づくり等について考える機会とし、グループは、保健師経験年数(職制を配慮)とし支部が偏らないよう編成しました。全体会では、11グループの内、3グループの発表後、宮原副会長、松本上席主任研究官、吾郷

【アンケートから】

全体を通じて、「大変参考になった」「参考になった」の感想を得、経験10年未満の参加者から、「地域で働く保健師とは、ということ学ぶことができた」、「同じ経験年数の保健師と話ができ、やる気がわいてきた」等の回答がありました。

「地域包括ケアシステム構築における保健所・市町村保健師の保健活動に関する研究」

報告には、「システム構築における保健師の役割を再認識した」、「小規模市町村の多い北海道では、より保健所のリーダーシップを望む」等の回答があり、講演・実践報告に対しては、「人材育成の意味合いや進め方が理解できた」、「具体的なオリジナルプランを自分たちで立てることで、育成計画が自分たちのもになると実感した」等の回答がありました。

また、グループ別意見交換については、「地域に責任を持つ、100点になって退職～人材育成は新任期だけのものではない事をもっと話し合いたかった」等の回答があり、引き続き、北海道らしい、地域に責任をもった活動の強化に向けた人材育成を考える機会が必要であることを再確認した研修となりました。



<全体会・グループ発表>

(記：北海道ブロック理事 岩本 泉)